

5月のアルミスクラップレポートおよび6月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

予測レンジは、LME現物後場買いで1850-1950ドル

■概況：前半は欧州大国 フランス、サルコジ大統領の敗北や ドイツメルケル国政与党の敗北・ギリシャ議会での連立与党の敗北による欧州懸念の再燃また、米JPモルガン銀が7721億の赤字を計上したことを嫌気し下落1984ドルと約66ドル下落での前半締めとなった。

後半はドイツの1-3月期GDPが+1.2%など好材料もあったが、ギリシャのパパデモス前大統領がギリシャはユーロ脱退を考えているとのコメントを発した事やスペイン政府のバンキア銀行救済のための190億ユーロ調達懸念を嫌気し下落。6月1日現在、LME(現物後場)1960ドルと24ドル下落のスタートとなった。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比-18.8%の79万9474台。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前月

比+13.1%の23万6366台(前年比+166.3%)であった。また国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)+5.7%(昨年比+10.3%)の7万3647戸であつ

	2月	3月	4月
生産台数	95万2268台	98万4567台	799474台
前月比	+13.7%	+3.4%	-18.8%
昨年対比	+19.7%	+243.7%	+173.8%

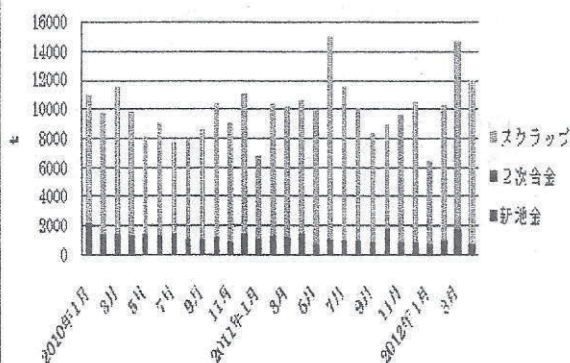
	3月	4月	5月
販売台数	49万7959台	20万8977台	23万6366台
前月比	+49.4%	-58%	+13.1%
昨年対比	+178.2%	+192%	+166.3%

	2月	3月	4月
新設住宅着工	6万6928戸	6万6597戸	7万3647戸
季節調整 前月比	+11.6%	-7.6%	+5.7%
昨年対比	+7.5%	+5%	+10.3%

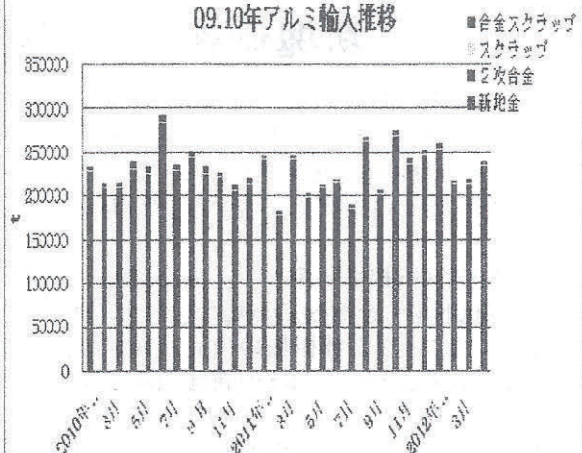
	2月	3月	4月
輸入			
新純金	12万4015t	11万9872t	14万7965t
前月比	-14.5%	-3.3%	+23.4%
二次合金	8万9375t	9万3728t	8万7399t
前月比	-17.6%	+4.6%	-6.8%
スクラップ	912t	1288t	681t
前月比	+47.8%	+41.2%	-47.1%
合金スクラップ	3084t	3822t	3753t
前月比	-47.1%	+23.2%	-1.8%

輸出	2月	3月	4月
新純金	149t	194t	84t
前月比	+210.4%	+30.2%	-56.7%
二次合金	878t	1659t	657t
前月比	+20.6%	+89%	-60.4%
スクラップ	9362t	12860t	11361t
前月比	+63.8%	+37.4%	-11.7%

アルミ輸出推移



09.10年アルミ輸入推移



た。

次に貿易指標を見ると、財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前月比-5.6.7%の84t、2次合金が-60.4%の657t、スクラップが-11.7%の11363t。輸入は新地金が前月比+23.4%の14万7955t、2次合金が-6.8%の8万7399t、スクラップが-47.1%の681t、合金スクラップは-1.8%の3753tとなった。

■前月の国内指標：日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前月比-2.5%の16万8584t(昨年対比 +1.5%)。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前月比-2.2%の6万7721t(昨年対比+41.2%)であった。

■見通し：自動車関連は堅調、さらに住宅が底入れ、軽圧品も堅調の月となったが欧州懸念の再燃により先行きは不透明。自動車生産は前年比+174%の79万9474台と9カ月連続上昇。新年度後も堅調に推移。また国内自動車販売台数も23万6366台と前年比+166%と急上昇。ようやく自動車関連のアルミ2次合金生産も、前月比-2.2%の6万7721t。昨年対比+41.2%と2カ月連続上昇、今後も増産開始か。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比-2.5%の16万8584t。昨年対比+1.5%と足踏み状態。新設住宅着工数は季節調整前月比+5.7%の7万3647戸 前年比は+10.3%と大幅回復となっ

た。

輸入塊は上海シグマが3月末 現在で2300ドル(-30)、ロシア塊は1980ドル(-170)とそれぞれだが港値にすれば190円、165円と185円前後の国内ものとはほぼ同等。輸入は新地金が前月比+23.4%の14万7955t、自動車関連の2次合金は-6.8%の8万7399t、スクラップは-47.1%の681t、合金スクラップは-1.8%の3753t。輸出は新地金が前月比-56.7%の84t。2次合金が-60.4%の657t、スクラップが-11.7%の1万1361tとなった。

アルミ原料需要に関して先月も震災の需要が進み新設住宅着工数は+10.3%(前年比)3カ月連続回復の兆し。また最大の需要家である自動車メーカーの自動車生産・販売共、+174%と+166%と好調維持。ただ2次合金生産は-2.2%(前月比)と伸び悩み、格安の輸入塊の増加が考えられ今後はこちらも生産は伸び悩むと予測。

前月は2次合金メーカーも自動車生産の増産でかなりのオーダーを受けてる模様ただし割安の輸入塊を背景に価格は下げ含み(国内塊)185円前後。LME価格については前月からの独・仏のいわゆる「メルコジ体制」の崩壊確定によるファンダメンタルズの悪化と6月17日のギリシャの再選挙の結果が期待できないとの予測から大幅悪化の1850-1950ドルを予測。スクラップ価格については5月後半価格から-5から10円下落予測。

第11回 6月のCRB(銅連邦準備委員会) COMC(銅公開市場委員会)声明

Facebook上で業界問わず銅についてのweb会議を行っているグループCOMC(銅原料対策準備制度、橋本健一郎議長)は6月5日にCOMC(銅公開市場委員会)を開催した。

声明は以下の通り。

第11回 COMC声明

- ①LME銅相場のトレンド予測：ベア(ベア(弱気)7、ブル(強)0)
- ②LME銅セトル予測：6633-7450ドル
- ③為替トレンド予測：円高

(円高6、円安0、横ばい1)

④ドル円予測：75.50-79.67ドル

⑤所感

5月の銅マーケットは、先月の悪材料引きずり、仏大統領選でサルコジ氏の敗北が確定するや否や、ECB・IMFの救済を前提としたギリシャ救済プランについて赤信号が点灯した。

さらにギリシャ議会で現連立与党(救済プラン奨励派)が敗北 続いて地方議会でドイツのメルケル首相率いる国民政党が敗北と今までの救済プランに欧州民がNOをつき